

昭和二十六年一月十一日受領
答 弁 第 三 九 号

(質問の 三九)

内閣衆質第三九号

昭和二十六年一月十一日

内閣総理大臣 吉田 茂

衆議院議長 幣原喜重郎 殿

衆議院議員横田甚太郎君提出鉄鉱石及び粘結炭に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員横田甚太郎君提出鉄鉱石及び粘結炭に関する質問に対する答弁書

一 鉄鉱石について

昭和二十五年下半期において中共地区から輸入された鉄鉱石は、北支地区の利国金嶺鎮鉱石（鉄分五六％）約二万トンで、その輸入価格はCIF約一〇ドルであつた。これに対し米国鉄鉱石（鉄分五八％）は目下契約中であるが、CIFで約二二ないし二二ドルである。なおアラスカ鉱石を輸入する場合には、CIF約一四ドルである。

二 粘結炭について

昭和二十五年下半期において中共地区から輸入された粘結炭は、満洲地区の適道炭（灰分一五ないし一六％）約五万七千トン、北支地区の開らん炭（灰分二〇％）約三〇万トンであるが、これらの輸入価格は、前者がCIF約一三ドル、後者がCIF約一二ドルであつた。これに対し米国の粘結炭（灰分六％）は、昨年十月頃契約分がCIF約一八ドル半であり、米国炭の高品位の点を考慮すれば、満洲炭又は北

支炭に比しむしろ有利な価格であつたが、最近の契約分については、海上運賃高騰の影響を受けて、C
IF約二一ドルである。

右答弁する。